

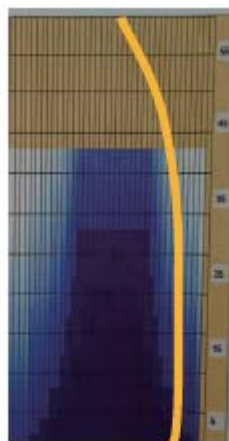
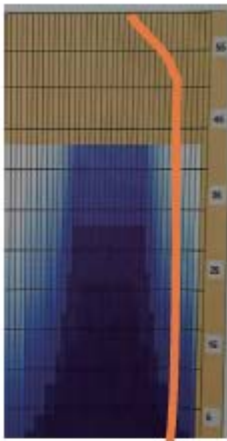
アーク？スキッド？

（ドリラーのひとりごと 第29話）
 プロテスタ その2

今回はボールの持つオイルへの強さや曲がりの能力についてお話しをしましたが、今月は曲がり方についてお話しをしたいと思います。

カタログなどを見ると、「アークな曲がり」「走って切れる」などの表現をされていることがあります。これはいったいどういうことでしょうか？

左に二つの絵をご用意してみました。右側の黄色がボールA・オレンジをボールBの軌道としましょう。どちらのボールも同じどちらもほぼ同じくらいの曲がり幅であることは見ていただけるかと思えます。大きく違う点は曲がり方が、ボールAは手前から曲がりだしているのに対して、ボールBはビンの手前で大きく曲が



るのがわかるかと思えます。ボールAのような軌道を弓矢の形状に似ていることから「アークな動き」という表現をします。以前はカーブボールと表現されることもありましたが、それに対してボールBは「スキッド感・走り・キレ」などで表現されます。こちらにも以前はフックボールと表現されていたこともありましたが。

特徴としては、アークな動きをするボールは手前から曲がろうとするので、オイルが多いときやスピードがあり曲がりあまり出ないポウラーに有効です。一方でスキッド感のあるボールは、レーン手前は直線上に動きをするのが特徴でオイルが薄くて曲がりやすい場合やスピードがあまりなく手前からボールが曲がってしまう方などに有効です。

例えば同じミディアム用であっても動きの形状が違ってきますので、ご自身かどのようなボールは欲しいのか、ご自身のポウラータイプによりボールを選択されるとよいかと思えます。

毎月いろいろなボールが発売されていますが、それぞれに特徴がありますので、ちょっと違った視点で見て頂けると、ボールに対する興味も変わってくるかもしれませんね。

もちろんカタログだけではわからないことがたくさんありますので、遠慮なくどんどん聞いてください。また各メーカーで参考動画を配信していますので、他ボールと比較しながら見て頂けると、ボールの違いを感じ取っていただけではないかと思えますので参考にしてみてください。

この会報が届くころにはプロテスタも終わり男子の新人プロはシーズントライアルでデビューしていることでしょう。新人が誕生するとまた歳をとったと感じてしまうのは自分だけでしょうか。

さてプロテスタは実技と筆記の二つのテストがあります。実技については以前お話しをしていますが、では筆記試験はどのような内容か簡単にお話ししたいと思います。

年や問題作成者により若干異なりますが、基本的には一般教養やルールに関するところが中心となります。そのほかにはスコアの計算問題があります。実をいうとこのスコア計算問題で苦戦する受験生が最近増えてきているそうです。

ご年配のポウラーさんはスコアを手書きで行っていた方も多いと思いますので当たり前のように計算をされていたかと思いますが、最近はおートスコアラーのため自動でスコアが計算されてしまうため、計算が苦手というポウラーが試験というとはやはり焦ってしまうのでしようね。

そのほかにも面接試験などもありますので、実技が終わっても気がなかなか抜けないのでプロテスタです。

＜筆者＞



佐取 賢 70 (44期)
 JPBAプロ 1級
 JPBA B級イストラ
 JBC公認ドリ